

ヨコヅナイフシ

文：高見 宗広、写真：秋山信彦



図 A：ヨコヅナイフシ *Narcetes shonanmaruae* (写真協力 東海大学海洋科学博物館, 2021 年 4 月 4 日まで同館にて展示中), B：クログチイフシ *Narcetes lloydi*

2021 年 1 月、駿河湾の最深部付近である水深 2171–2572 m から採集された巨大な深海性魚類ヨコヅナイフシ *Narcetes shonanmaruae* が新種として発表されました(写真A)。ヨコヅナイフシは、セクトリイフシ科というグループに属しています。セクトリイフシ科魚類はそのほとんどが水深 1000m 以深の海底付近に生息し、体長は通常 20 ~ 40 cm ほどです。このセクトリイフシ科の中でヨコヅナイフシは全長約 140 cm (体長約 120 cm)、体重約 25 kg に達し、これまでに知られているセクトリイフシ科の中で最も大きいことから力士の最高位の称号である「横綱」を冠した名前が命名されました。他のセクトリイフシ科の多くが主に端脚類やカイアシ類などの小さな甲殻類やクラゲ類などのゼラチン質プランクトンを餌としているなかで、ヨコヅナイフシの胃内容物として深海底生性の魚類(フクメンイタチウオ属)が発見され、さらに栄養段階を調べる分析によって、駿河湾の深海における生態ピラミッドの頂点に位置する魚食性のトップ・プレデターである可能性が高いとされており、その名前に恥じない生態も有しているようです。駿河湾には、ヨコヅナイフシによく似たクログチイフシ *Narcetes lloydi* というセクトリイフシ科魚類も分布しています(写真B)。ヨコヅナイフシは、背鰭の付け根の後端が臀鰭の付け根の前端よりも前にあること(クログチイフシでは臀鰭の付け根の前端がより前方にあり、背鰭の付け根の中間あたりまでくる)、鱗が小さいこと(鱗がより大きい)、背鰭の鰭条数が 14 本であること(17–22 本)などによって見分けることができます。クログチイフシは体長 50 cm ほどで水深約 700–1300m に生息し、稀にアコウダイなどを狙った深海釣りで釣れることがあります。写真の個体も、三保沖の水深 830–930 m からサバの切り身を餌とした深海釣りで採集されました。